

## 道徳的価値に基づいたキャリア教育の実践

—自分の生活を振り返り、一般就労に向けた主体性を育む進路指導—



県立鶴岡高等養護学校  
教諭 今野豊和

### 一 はじめに

昨年度、県教育センターの長期研修生として「道徳的価値に基づいたキャリア教育の実践的検証—『鶴岡養護道徳的キャリア・マトリクス(案)』の作成」をテーマに実践的検証を行う機会に恵まれた。研究の動機は、本校の生徒指導上の課題を解決することにあつた。筆者が道徳的価値を大切にする理由として、社会的自立には『学習指導要領』に掲げられる道徳的価値に基づき、自分の生活(考え方や感じ方、行動)を振り返る進路指導が必要である、と考えたためだ。

### 二 道徳的価値に基づいたキャリア教育の実践例

企業や法人などへの一般就労をめざす本校の生徒にとって、「道徳的価値に基づいたキャリア教育」は、職業人としての社会的自立の学びと、社会人としての生き方の学びにつながる可能性をもつと考えている。本校は、軽度知的障がいをもつ高校生の学び舎である。生徒たちは本校卒業後、自分の力で実社会を生きることを求められる。

②工夫二：志村けんの魅力的な言葉を生かした振り返り  
働くことに関する志村けんの言葉をもとに、自分の生活を振り返る時間を大切にしたい。

志村けん著「志村流」より

志村けんの青春時代をたどり、働くことについての考えに触れながら、生徒自身が自分の生活を振り返る。

志村けん「志村流」より

志村けんにも青春時代がある、たまたま日理した家族や自分、他人や社会のために一生懸命に頑張ってきた。私も卒業して社会に入ると、皆が家族のために頑張っている。

### 《実践》職業

(一) 単元名「現場実習や就労に必要なこと」

(二) 本時の目標

家庭生活や学校生活における5S(整理、整頓、清掃、清擦、作法)と、現場実習や就労のつながりを知る。

(三) 道徳的価値に基づいたキャリア教育の目標

挨拶や清潔感、身だしなみ、整理・整頓の習慣化や、遅刻や無断欠勤をしないなど、職業生活に必要な習慣形成が働く上では大切であることを知る。

(四) 指導の実際

①工夫一：生活を振り返り、主体性を育むための資料の工夫  
実習先の代表の方の助言を資料1のようにまとめ、普段の生活を振り返るための思考の手がかりになるようにした。

今回紹介する二つの実践では、実社会で生きるための糧となる「労働」について、その意義を考えるとともに、主体的に「労働」に関わろうとする動機づけや、「労働」に必要なことは何かを理解できるように、目標や内容を工夫した。

### 《実践一》生活単元学習

(一) 単元名「未来設計図 —誰かのためにがんばる心—」

(二) 本時の目標

志村けんのコメディアンとしての生き方を見つめながら、仕事は自分、家族、他人、社会のために行うものであることを知る。

(三) 道徳的価値に基づいたキャリア教育の目標

労働が賃金報酬を得る手段として機能しているだけでなく、自分の成長や社会全体の福利につながることを理解する。

(四) 指導の実際

①工夫一：生徒が興味・関心をひく題材選定と自作資料

生徒の実態を把握しながら、興味・関心を持って進路学習に取り組んでもらえるよう志村けんの生き方を題材に選定した。

手伝いや仕事などに対する義務的かつ受動的な考え方

参考図書：志村けん著「志村流」マガジンハウス



生徒がよく知っている志村けんの生き方や働くことに対する考え方に注目しながら、興味・関心をもって働く意義を考える授業の計画

資料1

資料1: 5S(整理、整頓、清掃、清潔、作法・礼儀・しつけ)の徹底

整理(せいり)	○ いらぬものを捨てておく。
整頓(せいとん)	○ 使ったものはもとに戻す。
清掃(せいせう)	○ 使ったものを綺麗に片付ける。
清潔(せいけつ)	○ 服のポケットやカバンの中を綺麗に保つ。○ 洗面所やトイレを綺麗に保つ。
作法	○ 話し言葉(敬語)を使う。○ 話し言葉(敬語)を使う。○ 話し言葉(敬語)を使う。
礼儀	○ 目上の人には敬語を使う。○ 目上の人には敬語を使う。○ 目上の人には敬語を使う。
しつけ	○ 目上の人には敬語を使う。○ 目上の人には敬語を使う。○ 目上の人には敬語を使う。

②工夫二：指導展開のストーリー化による系統的理解の工夫  
5Sが、身近な企業の取り組みとして行われ、それが普段の家庭生活や学校生活とつながっていることを、視覚的かつ系統的に理解できるようにした。

筆者が研習会で学んだ5Sの話 → 自己開示

5Sへの気づきと地元企業の5Sの取り組みの理解

5Sと家庭生活や学校生活とのつながりへの気づき

実習、就職試験

本時のふりかえり

### 三 おわりに

生徒の障がいの状況は様々であるため、今後も在籍する生徒一人一人の卒業後の姿をイメージし、労働・福祉・医療などの関係機関との連携や保護者との共通理解を大切にしながら、社会的自立を促す「道徳的価値に基づいたキャリア教育」の実践に努めたい。